

# 米沢興讓館高校SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール

平成29年3月17〜20日の期間で第6回科学の甲子園全国大会が開催されました。全国47都道府県から予選大会を勝ち抜いた47チーム、約400名が参加しました。本校は山形県代表として3年連続3回目の出場となりました。今大会では、筆記競技、実技競技①（化学分野）実技競技②（地学分野）実技競技③（総合競技）の4つの競技で得点を競うというものです。1チーム最大8名で構成され、その中から各競技にエントリーした代表者数名が競技に臨みます。

この大会では競技の他にもたくさんプログラムが組まれており、1日目にはスワップミートというご当地PRをしあうというものや、3日目にはフェアウェルパーティーという都道府県の枠を超えて交友を広げようというものもありました。生徒達は各競技に必死に挑むだけでなく、こういった他校生徒との交流も楽しんでこれたようでした。

米沢興讓館チームは、全国大会出場決定後、県教委主催による5度にわたる強化講習会へ参加し本大会に臨んだ。大会結果は総合順位30位であった。昨年のように実技競技部門で1位を受賞する事は出来なかったが、生徒はよく善戦し、それぞれの競技でベストを尽くした。生徒は全国トップレベルの力を肌で感じると共に、大会期間中の様々な場面での交流を通して、全国のライバル達と互いの健闘を讃え合い、友情を育んだ。本大会で得られた全国のライバル達とのネットワークは、生徒達にとっては大会結果以上の収穫となったのではなかろうか。そのようなライバルが全国にいることを意識しながら、より一層高みを目指して今後の学校生活に精進していつてもらいたい。さらに、その意識の向上を学校の仲間にも波及させてもらえれば最高だと感じました。

本大会の参加に際しては、強化講習会等のコーディネートや大会期間中の御助言等をしてくださった県教委・県教育センター、競技に関わる御講義や様々な実践的御指導をくださった山形大学の先生方、御支援いただいた公益財団法人近野教育振興会の皆様には、本紙面にてあらためて感謝致します。

さて、今大会の様子を生徒の言葉とともに振り返ります。



「科学の甲子園 全国大会」

（2年理科教科男子）

新しいものをたくさん経験できた大会でした。NHKによる取材、NCVラジオへの出演、そして全国という大きな舞台、全てが新鮮で、緊張しながらもたくさんのお話を学ぶことができました。その中で一番心に残っていることは「チームの力」です。私は今回、キャプテンをさせていただきまし。しかし、チームのメンバーは興讓館2年生の天才で強者で変人ばかりです。正直、心配でした。このチームがまとまるのか・・・と。けれども、最後には一致団結し、最高のチームになりました。

全国大会では、主に4つの分野があり、それぞれの分野で難しい課題が出されました。みんな苦しみました。全国への舞台で、各県の精鋭たちに囲まれ、競技するというのもあったと思います。けれども、競技を終えると、みんな笑顔で「難しかったけど楽しかった」と言います。プレッシャーがかかっている状況の中でそれぞれが担い、互いを頼りながら、自分のやるべきことに取り組む。このことでチームが団結し、ひとりひとりでは溶けない問題にも挑戦し、戦い、得られた達成感だったのだと思います。全国大会では、去年の先輩のように良い成績をとることはできませんでしたが、しかし、この大会を通して自分自身の力不足を知り、みんなが同じものに向かって力を合わせ、取り組むことで生まれる「チームの力」のすごさを感じました。私たちのチームの力は全国に出ても十分戦うことができたと誇りをもつことができました。ぶつかった。この大会で得られた経験を胸にこれから出てくる困難に力を合わせて

